

妙高戸隠連山国立公園を基盤とした糸魚川ジオパークにおける

地域の魅力を発信するツアー

実施マニュアル



環境省 信越自然環境事務所

令和元年 12月作成

- 目 次 -

1	はじめに	1
2	ツアー開催の流れ	2
2.1	目的（ねらい）及び客層の決定	2
2.2	ツアーの企画・立案	3
2.2.1	開催テーマの選定	3
2.2.2	プログラム等の検討	3
2.2.3	ツアー名の決定	3
2.3	ツアーの準備	5
2.3.1	現地下見の実施	5
2.3.2	広報の実施	6
2.3.3	参加者対応	6
2.3.4	各種手続き等	8
2.3.5	アンケートの作成	9
2.4	運営計画の策定	10
2.5	当日運営	16
2.5.1	現地最終確認	16
2.5.2	スタッフミーティングの実施	16
2.5.3	受付対応	16
2.5.4	進行管理	16
2.5.5	誘導	17
2.5.6	安全管理	17
2.5.7	記録	17
2.5.8	アンケートの配付	17
2.5.9	閉会	17
2.6	ふりかえり	18
2.6.1	反省会の実施	18
2.6.2	アンケート結果の集計	18
2.6.3	今後のツアーへの展開	18
3	今後のツアー実施にあたって	19

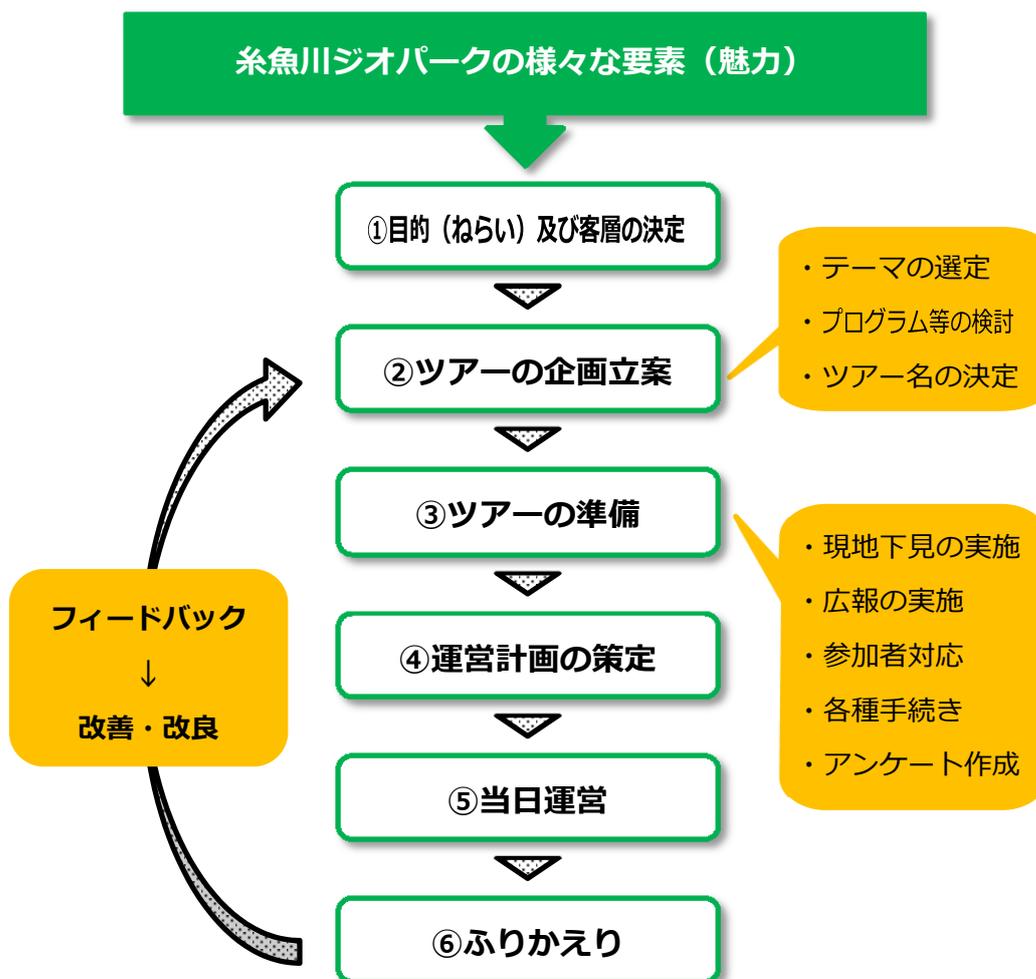
■参考資料：令和元年度モデルツアー関連資料（開催チラシ、開催案内資料、参加者アンケート）

1 はじめに

環境省では、様々な自然資源（自然の風景や自然に根差した文化）を持つ国立公園と、それに含まれるジオパークとの連携により、エコツーリズムなどを発展・充実させ、地域の活性化を図る取り組みを行っている。

妙高戸隠連山国立公園を基盤とした糸魚川ジオパークにおいて、持続的に地域の発展を進めていくためには、地域を活用した定期的なツアーが必要であると考えられる。そのため、今後の取り組みにつなげることを目的として、地域が主体となった定期的なツアーの開催を目指したモデルツアーを行った。

本資料は、令和元年11月17日に実施したモデルツアー「焼山の恵みいただきます！つくって楽しい食べて美味しいジオツアー」（以下、「令和元年度モデルツアー」）の開催状況及びアンケート結果を参考に、糸魚川ジオパークにおいて地域主体のツアーを開催するにあたっての準備や、検討・決定すべき事項やポイント、留意点について以下の流れに沿って整理した。



糸魚川ジオパークにおけるツアー開催の流れ

2 ツアー開催の流れ

2.1 目的（ねらい）及び客層の決定

糸魚川ジオパークの基本理念のひとつとして、「ふるさと糸魚川を磨き上げ・国内外に発信することによって、交流人口の拡大を図り、持続可能な発展を目指す」ことが掲げられている。一方、現時点では、この基本理念に基づいた定期的なジオツアーは開催されていない。地域の持続可能な発展のためには、糸魚川ジオパークが持つ様々な要素（魅力）を観光資源として活かし、定期的なツアーを開催していくことが重要である。

ツアーを開催するにあたっては、客層（ターゲット客）が明確になっていないツアーは集客に繋がりがづらい。そのため、上記に示した基本理念を踏まえ、「何のために」、「誰」に向けてツアーを実施するのかを明確にした上で、ツアーの企画立案を行うことが求められる。

なお、令和元年度モデルツアーへの協力者の意見を踏まえ、地域の持続可能な発展を目的として、地域を活用したツアーを開催する場合には、以下のような内容が想定される。

- 想定されるツアー：山菜収穫ツアー、きのこ狩りツアー、田舎農村体験ツアー

■参考：糸魚川ジオパークの歩み

ジオパークとは、地球や大地をあらわす「ジオ」と、公園をあらわす「パーク」を組み合わせた言葉であり、大地（地層・地質）やその上で成り立っている生態系のみならず、人の暮らしの中で築かれてきたこと（文化や産業、歴史など）も含めて知ることができる場所とされている。

糸魚川ジオパークは、平成 21（2009）年に日本で初めて世界ジオパークとして認定されて以降、様々な活動が行われており、現在では、認定ガイドによるジオサイトへのガイド業務や主催ツアーの実施のほか、市内小中学校の子どもたちによるジオパーク学習交流会が開催されている。これらの活動は、いずれも糸魚川ジオパークの基本理念に基づいて行われている。

2.2 ツアーの企画・立案

2.2.1 開催テーマの選定

目的及び客層（ターゲット客）の決定後、糸魚川ジオパークが持つ様々な要素（魅力）の中から、目的や客層に合致するテーマを選定する。テーマの選定にあたっては、地域性が高いもの（地域らしさ）を重要視することが望ましい。

2.2.2 プログラム等の検討

テーマに合わせて、ツアーの開催場所、開催日、ツアー時間、開催内容等の検討を行う。

検討にあたっては、主催者側の都合ではなく、想定している客層のニーズを踏まえることが重要である。また、定期的に開催することを視野に、無理のないプログラムとする。

なお、プログラムの実行にあたり、主催者が自ら実行できない場合には、ガイドや関係者（以下、「ガイド等」）との調整、開催場所の会場確保も併せて行う。

[検討項目]

開催場所、開催日時、プログラム（おおまかな行程）、募集人数、参加費

表 プログラム等検討時における留意点

検討項目	留意点
開催場所	・ 想定している客層のニーズを踏まえて選定する（主催側の都合に合わせない）。 ※併せてガイド等調整や会場確保を実施
開催日時	
開催内容	
募集人数	・ 実施体制のほか、会場・移動手段等を踏まえ、安全管理上無理のない範囲で設定する。 ・ 最少催行人数を設定する。
参加費	・ 最少催行人数でも実施可能（採算がとれる）かつ客層のニーズから大きく外れない範囲で設定する。

2.2.3 ツアー名の決定

開催場所やプログラムが概ね確定した段階で、テーマを踏まえたツアー名を決定する。

ツアー名の検討にあたっては、内容や魅力が伝わる分かりやすいものとし、客層（ターゲット客）目線で文言を選択する。

令和元年度モデルツアーでは、「食」をテーマとしたツアーを開催したが、ツアータイトルに「ジオツアー」と入れた結果、当初想定していた客層とはやや異なり、「地形・地質」の観察を目的とした客層が集まった。地形・地質等をテーマとしないツアーの際に、ツアータイトルに「ジオ」という言葉を入れる場合には注意が必要である。

■令和元年度モデルツアーの概要

「ジオパークを身近に感じる」を目的として、「食」をテーマに、食材調達や料理教室、温泉体験等を包括した内容とした。当初、糸魚川ジオパーク認定10周年の記念イベント内（10月13日）での開催を想定していたが、台風の影響で記念イベント自体が中止となったため、独自ツアーとして開催日時を再設定し、ツアー内容等も調整の上、実施した。



- テーマ：食（地域の郷土料理）
- 客層：県内外在住者（全年齢層）
- 名称：焼山の恵み、いただきます！つくって楽しい食べて美味しいジオツアー
- 開催場所：新潟県糸魚川市下早川地区（湯川内地域）
- 開催日時：令和元年11月17日（日）9：30～14：30
- 開催内容：ジオ散策（焼山周辺）、郷土料理づくり及び試食、入浴・地酒試飲
- 募集人数：20名 ※最少催行人数なし
- 参加費：3,000円 ※1名あたり
- 主催者：環境省信越自然環境事務所
- 協力者：笹倉温泉龍雲荘、湯川内地域づくり推進委員会



参加者アンケート結果（ツアープログラム等について）

上記のモデルツアー開催後に参加者（計10名）に実施したアンケートの結果、ツアー内容（時間や参加費を含む）に対して、概ね「満足」との回答をいただいた。一方、モデルツアーのテーマは「食」であったが、参加者の多くは地形や地質を目当てとして参加していたことが明らかとなった。

なお、ツアー参加者は全て60代以上であった。

[アンケート結果] ※無回答を除く

①参加の動機（複数回答可）

地形・地質・・・90% 郷土料理・・・70% 温泉・・・40%

②ツアー時間について（開催時間：9：30～14：30）

適切・・・60% 少し短い・・・40%

③参加費について（参加費：3,000円）

とても安い・・・20% 安い・・・10% 適切・・・70%

④集合場所について

主要駅を希望・・・40% 現地を希望・・・30%

2.3 ツアーの準備

2.3.1 現地下見の実施

ツアープログラムの確定後、現地の状況やツアー内容をより具体的にするため、開催場所の下見を行う。開催場所の下見は、ガイド等とともに実施することが望ましい。

現地下見においては、安全管理や準備物にかかる項目のほか、それぞれの役割分担やツアー時の解説内容等についても適宜確認を行う。

[現地下見時の確認項目]

- アプローチ道路の路面状況、危険箇所
- 施設の広さや設備、備品の保有状況
- (現地の場合) 携帯の電波状況
- 場所ごとの解説担当や内容 等

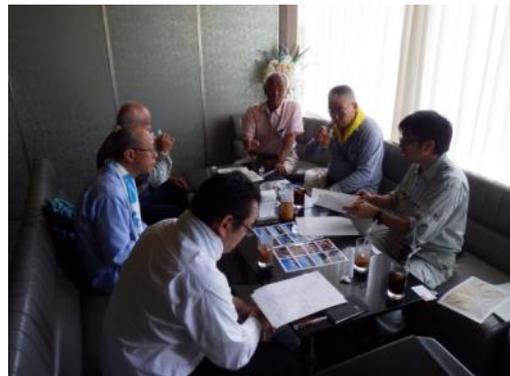
■ 令和年度モデルツアーにおける現地下見の様子

プログラム内容を踏まえ、ツアールートを検討のため、実施場所と想定されるエリアをガイド等とともに下見を行った。

下見の際には、ツアーの目的を踏まえて、参加者向けに何を見せたいか、どのような解説ができるか等についても意見交換を行い、広報等に使用する素材(写真等)の収集も併せて実施した。



現地下見の様子



下見後の意見交換の様子

2.3.2 広報の実施

ツアーの広報は、客層に合致した周知方法によって行う。広報物を作成し、掲示や配布を行う場合には、開催内容が簡潔に伝わるようなデザイン・文章に留意する。

【広報時の実施項目】

- 広報内容の整理（周知内容、申込み先・問い合わせ先の整備）
- 周知方法及び広報先の抽出（チラシ、ポスター、プレスリリース、HP や SNS 等）
- 広報物の作成（チラシ・ポスター 等）

【広報時の留意点】

- 広報は、可能なかぎり開催日の1か月以上前から開始する。
- 申し込み方法は、可能であれば2種類以上を準備する（例：メールとFAX）。
- 申し込みの締め切り日は、ツアーの準備に支障が出ない日程で設定する。
- 周知方法や広報先は、想定する客層に合致した方法を選択する。

表 周知方法別のメリットデメリット

周知方法	メリット	デメリット	効果的な年齢層
チラシ・ポスター	・エリアを限定した周知が可能 ・客層に直接働きかけやすい	・作成や印刷にコストがかかる ・配布や掲示の際に調整が必要	全年層
プレスリリース	・コストがかからない ・広く周知可能	・掲載可否の判断権限がない (掲載されない可能性あり)	中年層以上
インターネット	・コストがかからない ・即時性が高く、広く周知可能	・年代によっては情報が伝わりにくい ・多くの情報に埋もれやすい	若年～中年層
SNS	・コストがかからない ・即時性が高く、広くも限定的にも周知が可能	・年代によっては情報が伝わりにくい ・多くの情報に埋もれやすい	若年層

2.3.3 参加者対応

参加申し込みがあった場合には、案内状の送付や緊急時の連絡先、保険の加入に必要な個人情報等を提供いただき、開催1週間程度前には、集合場所や当日の行程（雨天時の対応含む）、持ち物や注意事項等を示した案内資料（旅のしおり等）をメールや郵送等で送付することが望ましい。また、提供をうけた個人情報については、データの管理に注意するとともに、ツアー終了後は適宜消去する。

【申込時の確認事項】

氏名、住所、電話番号（緊急連絡先）、メールアドレス、その他*

※年齢（保険に必要な場合のみ）、集合・解散を希望する場所（送迎がある場合）等

■令和元年度モデルツアーにおける周知状況

広報には、インターネット及びプレスリリースを活用した。またチラシデータを作成した（電子版の公開のみとし、印刷配布は実施していない）。

- 広報内容：開催趣旨、開催日時、集合場所、プログラム概要、参加費、申込み方法、問い合わせ先、申込み期限
- 周知方法：糸魚川市・観光協会・協力者（笹倉温泉）HP、SNS（facebook や twitter）、記者クラブへの投げ込みによるプレスリリース
※裏面を申込用紙としたチラシを作成



チラシ（表面）

■令和元年度モデルツアーにおける参加者対応

参加者に対しては、申し込み受領後、開催 1 週間前に、郵送にて案内資料を送付した。

- 記載内容：開催日時・場所、持ち物、参加費、集合場所・時間、当日プログラム、ツアールート図、問い合わせ先（緊急連絡先を含む）等



送付した案内資料



参加者アンケート結果（広報について）

上記の周知方法により開催した令和元年度モデルツアー参加者へのアンケートの結果、新聞によってツアー開催を知ったという方が 60%と最も多かった。また、見つけやすいと思う広報の方法では、チラシ（80%）が最も多く、電話での申し込みを希望する方が多かった（参加者の年齢は全員が 60 代以上）。

[アンケート結果] ※無回答を除く

①モデルツアーを知ったきっかけ

新聞・・・60% 知人の紹介等・・・20% チラシ・・・10%

②見つけやすいと思う広報の方法（複数回答可）

チラシ・・・80% 新聞・・・20% SNS・・・10% 広報など・・・10%

③申込んだ方法

FAX・・・80%

④申込みしやすい方法（複数回答可）

電話・・・80% FAX・・・20% メール/SNS/インターネットサイト・・・0%

2.3.4 各種手続き等

(1) 保険への加入

ツアー開催時に事故等が発生する可能性を想定し、ツアー内容に合わせて、行事参加者（レクリエーション）傷害保険やイベント施設賠償責任保険等に加入する。また、保険の補償内容については、ガイド等間で情報共有を行う。

なお、行事参加者（レクリエーション）傷害保険は、参加者に傷害等が生じた場合の保険であり、運営側には適応されないため、必要に応じて別途保険の加入を検討する。

[保険の種類]

- 行事参加者（レクリエーション）傷害保険：参加者のケガや事故の補償
※最低契約人数が設定されているものが主流
- レジャー保険：レジャー等におけるケガや事故の補償 ※1名から加入可能
- 施設賠償責任保険：管理する施設や建物で発生した賠償事故に対する補償

■令和年度モデルツアーにおける保険加入状況

今回のツアーでは、ジオ散策のほか、料理体験が含まれていたことから、行事中の傷害、往復途上傷害、熱中症、細菌性食中毒の特約を付帯した行事参加者（レクリエーション）傷害保険に加入した。

(2) 法令等の確認

ツアー内容において、法令等の制限が生じる可能性があるプログラムを組む場合には、各関係機関等に問い合わせの上、適宜申請手続き等の対応を行う。

[手続きや確認が必要と考えられるプログラム（例）]

- 調理体験、飲食物の提供・・・食品衛生法
- 国有林内の利用・・・森林法（入林届の提出）
- 河川区域内の利用・・・河川法、漁業法（漁業調整規則 等）

■令和年度モデルツアーにおける実施状況

料理体験にかかる食品衛生上の届出の要否について保健所に確認の上、注意点等について指導を受けた。このほか、留意点等が整理された資料を収集し、当日の運営時の参考にした。

2.3.5 アンケートの作成

ツアーの品質向上を目的として、参加者を対象としたアンケートを実施することが望ましい。アンケートの設問の検討にあたっては、次回開催時のヒントとなるものを設定する。アンケートの分量は、回答にあまり時間のかからないボリュームとすることが望ましい。

また、今後のツアー開催情報等の発信について設問を設け、情報を希望される方には連絡先（メールアドレス）を記載いただく欄を設けることで、次回以降の周知に繋げていくことが可能である。その際には、ツアー時の写真を送付する等の特典を設けるとなおよい。

[想定されるアンケート項目]

- ツアー内容について（参加動機、満足度、良かった点・悪かった点 等）
- 今後の展望（興味をもったこと、希望する時期 等）
- 個人属性（性別、年齢、居住地域、参加のきっかけ 等）

■ 令和年度モデルツアーにおけるアンケート項目

[ツアー内容について]

申込み対応、参加動機、ツアー時間、ツアー料金、内容への満足度、印象に残ったこと、気になったこと

[今後の展望]

魅力と感じたこと、体験したいこと、来訪したい時期

[個人属性]

性別、年代、居住地域、参加のきっかけ、申込み方法

登山の楽しみ、いただきます！見て楽しい食べておいしいジオツアー参加者アンケート

令和5年10月13日(日)開催

本ツアーは、群馬県利根郡利根町にある利根川ジオパークの世界ジオパーク認定10周年を記念し、ジオが持つ「様々な魅力」について興味を持っていただくことを目的としたモデルツアーとして開催しています。今後の利根川ジオパークの魅力を活かせる取り組みへの参考に、今回のツアーに関するアンケートへのご意見を伺い致します。

1. 申込み等について

●申込み後の対応について
1.とても安心できた 2.安心できた 3.どちらともない 4.不安だった 5.とても不安だった

●その他、申込み等について気になった点があればお書きください。(自由回答)

2. ツアー内容について

●参加の動機となったツアー内容
1.歴史・地理 2.自然の観察 3.郷土料理 4.温泉 5.その他

●ツアー期間について
1.興味ある 2.少し興味 3.普通 4.少し嫌い 5.見ずる

●ツアー料金について
1.とても安い 2.安い 3.普通 4.高い 5.とても高い

●ツアー内容の満足度
1.とても満足 2.満足 3.普通 4.物足りなかった 5.とても物足りなかった

●期待以上だった部分や印象に残った部分はありませんか？(自由回答)

●期待よりなかった部分や印象に残った部分はありませんか？(自由回答)

画面に続きます。

アンケート例

2.4 運営計画の策定

広報開始後、開催内容に合わせて、計画書を作成し、運営計画を策定する。

計画書は、開催趣旨やプログラム概要、役割分担及び分担別のタイムスケジュール、準備品リスト、緊急時の連絡先等、当日の運営に必要な情報全てを整理した資料とする。

計画書を作成することにより、運営時のミスや事故を未然に防ぐとともに、ガイド等が全体の流れを把握することが可能となる。そのため、事前打ち合わせの資料としても活用し、開催までに改良していくことが望ましい。また、次回開催時のノウハウの蓄積としての役割も持っている。

[計画書への記載項目]

- 開催概要（開催趣旨、プログラム表 等）
- ツアーのルート図
- 役割分担表
- 分担別の役割内容及び分担ごとの準備物や配置図
- 運営アナウンス原稿
- 準備物リスト
- 緊急時対応マニュアル及び緊急連絡先一覧
- タイムスケジュール
- 中止の判断基準



計画書を資料とした事前打ち合わせの実施

(1) 開催概要

開催概要は、主に広報時に周知する内容を記載する。また、プログラム表には主催者と参加者の動きも併せて記載し、全体の流れが把握できる構成とする。

なお、天候等で別プログラムとなる可能性がある場合には、その行程も整理する。

[開催概要への記載項目]

- 開催趣旨
- 開催日時
- 開催会場
- ガイド等
- ツアー内容
- 主催・共催・協力
- プログラム表（天候等による変更の可能性も踏まえて検討）

■令和年度モデルツアーにおけるプログラム表（例）

プログラムには、ツアー開催時の行程だけでなく、スタッフの集合から解散までの一連の流れがわかるように、主催者・参加者の動きも含めて記載した。

時間	プログラム		主催者側	参加者側
8:45	主	笹倉温泉集合・ミーティング 受付設営	受付、料理体験会場設 営（8:00頃～）	マイクロバスで移動 （現地集合の方は除く）
	参	糸魚川駅集合 送迎バスにて出発	送迎対応：●●	
9:15 ～9:30	受付		受付：●●	笹倉温泉到着
9:30	【開会】開催趣旨・当日の行程説明		●●	イベント参加
9:40	講師紹介、講師挨拶		●●	
9:45 ～10:45	①活火山焼山を臨む（バス＋徒歩） 湯川内生活改善センターでは、 料理会場の設営・準備（8:00頃～）		解説：●● ●●	
	②料理体験・食事（場所：湯川内生活改善センター）		料理指導：●●	
10:45 ～13:00	笹倉温泉へバス移動			
13:00 ～13:10	温泉や地酒の説明・試飲		解説：●●	
13:25	【閉会】アンケート回収		●●	
13:30～	③入浴体験（希望者のみ） 入浴後は現地解散		入浴されない方には 笹倉温泉の素を配付	自由行動
14:45	糸魚川駅へ向けてバス出発		送迎対応：●●	バスで糸魚川駅へ 移動、解散

(2) 役割分担

役割分担では、各役割に具体的に担当者を割り振り、必要なスタッフ数について明らかにする。また、役割分担表の作成とともに役割ごとに作業内容や必要な物品を整理し、それぞれが具体的に役割の内容を把握できるようにする。

[開催概要への記載項目]

- 全体を統括する係を設ける（常に参加者と動向し、全体を把握する）。
- 同一の役割に複数のスタッフがいる場合には、必ず主となるスタッフを決める。
- 参加者の安全管理を踏まえた体制を構築する。

表 役割分担表（例）

役割	担当者	所属	主な作業
コーディネーター			・ 全体の進行管理
ガイド			・ 解説
⋮			

■令和年度モデルツアーにおける役割分担（例）

役割分担として、主催者、全体統括及び司会進行、受付、送迎、ツアー内容別担当（ガイド、料理担当、入浴・試飲体験）、記録・安全管理を配置した（兼務あり）。計画書には、役割分担表とともに、担当別に必要な情報を集約・整理した。

3) 受付【担当：●●】

- 設置場所：笹倉温泉麓雲荘ロビー付近（設置時間 9:15~9:30）
- 対応内容：参加者の氏名の確認、参加費用の徴収
※入浴の有無についても確認（笹倉温泉の素の確保）

【準備物】

- 受付机・椅子 受付名簿 開催案内資料（忘れた方のみ配付）
- お釣り（千円札） 筆記用具一式 受付看板（A4） テープ類
- アンケート回収箱（終了時に使用） 当日のルート地図（大判）

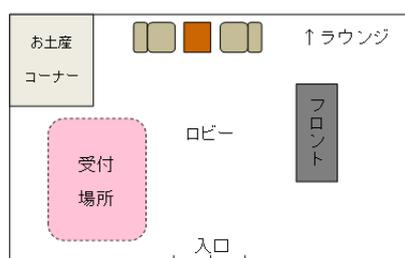


図 受付の位置

分担別の役割内容記載例

(3) 運営アナウンス原稿

当日の運営にあたって、具体的な進行イメージを共有するため、進行役が実際に行うアナウンスの原稿を作成する。運営アナウンス原稿は、台本形式で作成し、アナウンス内容だけでなくスタッフの動きなども含めて記載する。

■令和年度モデルツアーにおける運営アナウンス原稿（例）

運営アナウンス原稿には、プログラム項目と予定時間を併せて記載し、時間管理も同時に実施した。

項目	時間	アナウンス内容
開会・あいさつ ・行程説明	9:30 ～9:40	<p>■開始アナウンス</p> <p>環境省 信越自然環境事務所主催「焼山の恵み、いただきます！つくって楽しい食べて美味しいジオツアー」にご参加の皆さま、本日は誠にありがとうございます。</p> <p>これから、焼山の見学、郷土料理体験、そして、入浴・試飲体験をしていただきますが、はじめに、主催者である、環境省信越自然環境事務所の●●より、ご挨拶をさせていただきます。</p> <p>(●●より挨拶)</p>

(4) 準備物リスト

当日の運営に必要な準備物について、役割分担や使用箇所別に整理し、リスト化する。なお、リストには、準備物ごとの数量とともに準備の担当者も記載する。

表 準備物リスト（例）

項目	準備物	数量	準備者			
			会場備品	主催者	●●	△△

(5) 緊急時対応マニュアル及び緊急連絡先一覧

ツアー開催時に事故等が発生する可能性を想定し、事前に確認・準備する事項や物品、当日の安全管理の手順等について整理する。計画書には、実際の対応のほか、ガイド等や病院・消防等の緊急連絡先も含めて記載する。

[事前確認・準備内容]

- 事前に移動経路等を下見し、危険場所等の確認を行う。
- 怪我や急病者等が発症した場合に備え、救急セット等の準備を行う（救護スタッフを1名程度配置することが望ましい）。
- ツアー内容に合わせて保険への加入や、関係機関への申請等を実施する。

[当日の対応（例）]

- 屋外において急病者や怪我人が発生した場合は、安全管理担当が応急手当を行うとともに、状況に応じて救急車の手配や病院への搬送を行う。
- 怪我や急病者等が発症した場合に備え、救急セット等の準備を行う（救護スタッフを1名程度配置することが望ましい）。
- 食中毒とみられる症状が発生した際には、速やかに救急車の手配を行い、病院へ搬送する。また、参加者の体調の変化を適宜把握し、必要に応じて保健所への連絡やその後の手続きを行う。

■令和年度モデルツアーにおける緊急時対応

緊急時の対応として以下を準備した。

- 安全管理スタッフを1名配置し、ツアー参加者が乗車するバスとは別車両で同行。
- ツアー開催場所近隣の病院、警察署、消防署、保健所、加入した保険会社の連絡先を一覧表として整理し、計画書に記載。
- 料理体験にかかる食品衛生上の届出の可否について保健所に確認の上、注意点等について確認。
- 料理体験時には、参加者の手洗い及び「手袋」「帽子」「マスク」を配付の上、着用を徹底し、食中毒に配慮。
- 留意点等が整理された資料を収集・確認し、当日の運営時にも手持ち資料として持参。

(6) タイムスケジュール

タイムスケジュールには、ガイド等全ての当日の動きがわかるように、スタッフごとの集合から解散までの一連の動きを一覧表に整理する。

一覧表作成時には、スタッフそれぞれがどのタイミングで何をすればよいのかがひと目で分かるように、作業内容を具体的に示しておくことが大切である。

表 タイムスケジュール（例）

時間	プログラム	A氏	B氏	C氏
8:30	集合・ミーティング	集合		
8:45～	会場設営	受付設営	会場設営	
9:30	受付開始	受付対応	待機	会場誘導
⋮				
14:30	閉会	閉会あいさつ	アンケート回収	
14:30～	撤収作業	参加者対応	撤収作業	

(7) 中止の判断基準

ツアー内容に応じて、悪天候の場合の中止基準を設定する。台風等、事前に危険が予想される場合には、可能な限り早めに判断し、参加者への対応を行う必要があるため、判断するタイミングや悪天候時の対応なども事前に整理しておくことが望ましい。

[中止基準（例）]

- 当日に大雨・洪水・暴風警報の発令が想定される場合。
- 1時間の降水量が20mmを超えると予測される場合。
- 視界不良により、ツアーの開催が難しいと判断される場合。

[対応（例）]

- 天候不良時の開催有無については、広報時ほか、開催案内資料にも記載する。
- 天気予報を適宜確認し、台風等、事前に判断可能な場合には3日前に判断し対応する。
- 当日に開催が困難と判断された場合には、開催3時間前に参加者に連絡する。

■令和年度モデルツアーにおける中止時対応

当ツアーは、糸魚川ジオパーク認定10周年の記念イベント内（10月13日）で開催する予定であったが、台風の影響で主体イベントが中止となったため、ツアーも中止となった。その際、以下の手順で中止時対応を行った。

- ①イベントの開催有無の確認→②イベント中止に伴う開催中止の決定（開催3日前）
- ③参加者に電話・メールで中止の旨を連絡→④ガイド等へも中止を周知→⑤中止確定

2.5 当日運営

2.5.1 現地最終確認

眺望等が必要なプログラムの場合には、可能な限り当日の朝に現地の状況を把握し、対応を検討する。また、現地までの移動経路に危険な箇所がある場合にも適宜対応する。

2.5.2 スタッフミーティングの実施

ツアー当日には、会場設営等の作業を実施する前に、ガイド等が一同に集まり、当日の流れや役割分担等について最終確認するスタッフミーティングを行う。

ミーティングでは、当日の行程のほか、注意すべき事項等について、ガイド等の間で情報共有を行う。ミーティングの取り仕切りは全体統括者が行う。

[ミーティングでの確認事項]

当日の行程、スタッフごとの役割分担及び作業内容、参加者数や年齢層、注意すべき事項 等

2.5.3 受付対応

集合場所に受付ブースを設営し、受付に訪れた参加者に資料の配付を行うほか、参加者を正確に把握する。集合時間までに参集されない方には連絡を取り、参加の可否について最終確認を行う。また、参加費を徴収する場合には、領収書やお釣りの準備等も併せて行う。

参加費の徴収においては、必要に応じて、振り込みのほか、電子マネー、カード払い等も検討する。



受付の設置（例）

[受付準備物（例）]

受付看板、参加者名簿、配付資料、お釣り・領収書（参加費徴収の場合）等

2.5.4 進行管理

ツアー開始後、参加者に向けて当日のスケジュールの説明及び注意事項の伝達、ガイド等の紹介を行う。

コーディネーターやガイドは、プログラムの進行や時間管理を行い、予定よりも時間が超過している場合は、適宜先のプログラム時間の調整を検討し、終了時間が大幅に遅れないように管理する。



開会・行程説明の様子

[進行管理準備物（例）]

アナウンス台本、時計、携帯電話（ガイド等連絡用）

2.5.5 誘導

プログラムの進行に併せて、参加者の移動が伴う場合には、必ず人数の確認を行い、人数が不足していないか把握する。

2.5.6 安全管理

安全管理担当者（コーディネーターやガイドが兼任の場合もあり）は、救急セットを携行し、参加者に同行する。また、料理体験等を行う場合には、参加者の手洗い及び手袋や帽子の装着を適宜呼びかけ、食中毒等が発生しないように留意する。



食中毒防止対策（例）

[安全管理準備物（例）]

救急セット、緊急連絡先一覧、携帯電話（緊急連絡用）

2.5.7 記録

当日の開催状況については、適宜写真撮影を行うとともに、参加者の反応や質問・意見等について記録する。状況に応じて、参加者に後日送付する写真を撮影するスタッフを配置することも検討する。

写真撮影にあたっては、可能なかぎり、参加者の顔が写らないように配慮する。また、撮影した写真を次回以降の広報素材として使用する可能性がある場合や、後日参加者に送付を予定している場合には、参加者に事前に許可を得ることが必要である。

2.5.8 アンケートの配付

ツアー終了後、事前に作成した参加者アンケートを配付し、ツアーの感想等について情報収集を行い、ツアー内容の改善に努める（設問の項目等については、9ページを参照）。

アンケート配付時には、画板や筆記用具も併せて配付することが望ましい。

2.5.9 閉会

全てのプログラム終了後、解散前に終了のアナウンスを行う。また、参加者が会場にいる間は、可能なかぎり現地に待機し、必要に応じて対応することが望ましい。

2.6 ふりかえり

2.6.1 反省会の実施

ツアー終了後、スタッフが集まって、当日の良かった点、気になった点等について反省会を行うことが望ましい。反省会では、参加者の反応を踏まえながら、今後の改善点等について話し合うことが求められる。反省会で出た意見については、議事録として整理しておくとうい。

[反省会時の確認内容（例）]

- 参加者の反応はどうだったか
- 運営面での良かった所・悪かった所
- 採算の状況について
- 次回の改善点について

2.6.2 アンケート結果の集計

参加者から収集したアンケート結果について集計し、当日スタッフ間で共有する。反省会で出た意見と併せて整理するとより効果的である。



参加者アンケート結果（今後の展望に係る項目）

令和元年度モデルツアー参加者へのアンケートの結果、ツアーの申し込み後の対応やツアー内容についての満足度は高かった。また、今後のジオツアーについても、子どもと体験する内容等を希望する回答を得た。

[アンケート結果] ※無回答を除く

①申し込み後の対応

とても安心できた…30% 安心できた…60%

②ツアー内容の満足度

とても満足…50% 満足…50%

(今回のジオツアーの体験を今後の参考にしたい。との回答もあった。)

③今後希望する体験

子どもを連れたキャンプ、登山口までのハイキング 等

④モデルツアーで感じたジオの魅力や場所

とや展望台、火砕流・溶岩流の跡

2.6.3 今後のツアーへの展開

反省会及びアンケートの集計結果を踏まえて、今回のツアーの評価を行い、今後改善が求められる部分と改善方法について検討することが望ましい。

3 今後のツアー実施にあたって

令和元年度モデルツアー開催後に回収した参加者アンケート結果、回答者全員が「とても満足」または「満足」と答え、糸魚川ジオパークにおいて、地域の方々が主体となって魅力を発信するツアーに対するニーズは、充分あると考えられる。

しかしながら、ツアー運営の協力者へのアンケートや聞き取りの結果、「観光的な目的で、お金を得るための場として年に何回もツアーを担当、開催することは、現在のメンバーだけでは体力的にも気持ち的にも難しい。」といった今後の課題も多くあげられた。

今後、地域住民や団体が主体となってツアーを開催する場合、もしくはツアーへの協力を依頼する際の留意事項等について以下に整理する。

(1) 協力者の状況も踏まえた「ねらい」の検討・設定の重要性

地域の人たちの協力を得ながらツアーを実施する場合には、観光面、お金の確保だけではなく、協力者側にとっても、参加者との「ふれあい」や「交流」の機会（メリット）となるような内容、設定を検討しつつ実施することが重要と考えられる。

その際のツアーの「ねらい・設定」については以下のようなものが考えられる。

[想定されるねらい・設定]

- 地域のことを知ってもらいたい、地域の魅力をアピールしたい。
- ツアーの実施をきっかけとして地域の活性化につなげたい。
- 周辺市街地や都市部の人々に地方の山麓部の暮らしや魅力を体験してもらいたい。
- 子どもたちの体験学習の場として地方の山麓部の暮らしや魅力を体験してもらいたい。
- 地域外の人との交流の場を設けたい。

(2) 協働体制の必要性

地域主体で継続的なツアーを開催していくためには、開催の運営を支援、協働できる体制（サポート）が求められる。また、地域が持つ魅力の活用や、伝統的な暮らしや自然との関わりについて伝承していく際にも、地域の魅力の発掘や伝達に興味を持ち、積極的に取り組みに関わっていける若手の人材が重要であると思われる。

(3) 周知方法やツアー内容について

周知は、想定する客層に合わせた効果的な方法を選択することが重要である。糸魚川ジオパークのHPでは年間のスケジュールが周知されており、そのひとつとして組み込むことが出来れば、安定・継続して開催していくひとつの手法になると考えられる。

また、学校教育等におけるジオ学習の一環として、地形や地質だけではなく、ジオから得られる「恵み」（例：食材調達、郷土料理）や、暮らしの中で行われてきた祭事などを体験することも、地域の魅力や文化の理解向上、知識・技術の継承の良い機会となる。